



教育の観点

TALK SESSION

瑞穂町立瑞穂第一小学校

石坂 隆文 校長先生 寺側 厚雅 先生

公益社団法人東京都理学療法士協会
エスカレーターマナーアップ推進委員会
小学生向け教材制作プロジェクト
理学療法士

水瀬 光汰

エスカレーターマナーアップ推進委員会では、2022年9月より小学生向け教材作成事業を行ってきた。作成には小学校の先生を始めとした有識者の方々にもご協力をいただいた。今回、ご協力いただいた瑞穂町立瑞穂第一小学校の石坂隆文校長先生と寺側厚雅先生と本委員会の水瀬光汰が教材完成後の座談会を開催した。座談会の様子をお送りする。



<https://www.pttokyo.net/esca/>



【エスカレーターマナー】への意識の変化

水瀬 実際にこのプロジェクトがスタートして1年が経ちますが関わってみて率直な感想があれば教えてください。

石坂 理学療法士の方々が教育的な多様性を認める運動 / 社会課題に向き合っているのを知って驚きました。プロジェクト参加によりエスカレーターへの意識は高まり止まって乗っていますが、まだ「左」に止まることが多いです。

寺側 エスカレーター乗る時に考えるようになりました。娘（子ども）とエスカレーターに乗る時は手をとり乗るので、子どもだけではなく体が不自由な人もいますので、本当に止まって乗らなきゃいけないんだと乗る度に感じるようになりました。子どもと乗る時には「歩いちゃダメ」ということを言います。

実際に小学生へ教育をしてみても

水瀬 貴校では石坂先生が授業をし、8月の完成イベントでは寺側先生が授業をしてくれました。ありがとうございました。小学生に対して授業をした感想を教えてください。

石坂 子ども達が真剣な表情で話を聞いてくれました。教材が【漫画 / 映像】という点も親しみやすく良かったです。【映像】は当事者インタビューから実際にどのような事で困ってるかがわかりましたので、子ども達が真剣に考えるきっかけになりました。

寺側 子ども達が一生懸命考えて何が課題かを色々発言してくれました。やはり「伝わるんだなあ」と思いました。

水瀬 この教材を使用する授業はどのくらいの学年が合っていますか？

石坂 実際に4年生に授業をしたのですが、すごく手応えがありました。5、6年生ならもっと理解してくれる気がします。3年生はまだ難しいんじゃないかな？

寺側 年齢が上の子の方が色々考えられる。相手の立場に立つことが大事なので知識 / 経験がある方がより理解できると思います。下の学年の子達は理解が及ばない様子もありました。

教育を通して先生たちの意識も変わる

水瀬 このプロジェクトではエスカレーターマナーについて小学校の先生たちと活動しておりますが、児童への教育を通して先生方が変わることはありますか？

石坂 あります。実際に困っている人がいることを知らないが故にできていなかったことがあるので、その思いを知ることや条例があることを知って変わる大人は必ずいます。

寺側 自分自身も知らないことがあったので、まずは知ることがすごく大事です。

当事者の声をリアルで聞く機会

水瀬 今後この活動を発展させていく為、理学療法士が小学校で出張授業をすることができないかという案があります。授業をする際にアドバイスをください。

寺側 Web サイトの中の当事者の方達へのインタビュー動画が分かりやすかったです。実際に授業する場合、当事者の声が映像ではなく【リアル】で、話をさせていただく事が可能であれば、実際に「どういう時に不自由を感じるか」、例えば「半身不随」「障がいを持っている」といってもまだまだ子ども達には理解できないので、直接話を聞くことにより、生活への不自由な部分 / エスカレーターが危ない事がダイレクトに伝わると思います。

石坂 直接関わっている理学療法士の方が障害を持っている方々の思いを代弁してでも伝わる部分もあります。授業で「がん教育」をした際に、看護師さんが来て話をしてくださったのですが、児童達の考えが深まりました。

【写真】(左から)水瀬光汰、石坂隆文校長先生、寺側厚雅先生



その方々の思いを実際に聞いた人が伝えていくみたいな形でもいいのかと思います。本当に当事者が来てくださるのが一番だと思いますけどね。

多様性 / SDGS の観点での教育

水瀬 エスカレーターの乗り方を通じた社会課題を小学校教育から知っておくことが大事だと思っておりますが、如何でしょうか？

寺側 高学年では、SDGS や多様性の話が授業で取り扱われます。多様性という自分と他者がどう関わりを持つか？の観点でして、障がいを持った方を含めみんなが幸せに暮らせる社会をどのように作るか？目指していくか？はすごく大切なテーマで、特に6年生はそういうテーマが色々な教科で出てくるのですごく大切です。

石坂 インパクトはそこまで強くないかもしれませんが、多様性の面で特性を理解する上で合点がつきやすい教材だと思います。扱い方によって本当にいろいろ活用できますし、子ども達が社会にアンテナをはってもらえる一つとしては大切な内容です。児童達がもう5年後10年後には社会に出ていくので、今のうちに基盤を作るという意味でもとても大事です！

親子の会話を通じた「大人」への波及

水瀬 学校で授業をした先、さらに広げていく事を考えると子ども達から「今日学校でこんなことやったんだよ！」と親御さんに伝える事も大事だと思います。親御さんにこの活動を波及させていくことはできますか？また波及させていくためにはどうすれば良いでしょうか？

石坂 例えば学校公開で見てもらおうというのはとてもよいのではないのでしょうか。もしゲストティーチャーで先生方に来ていただけるなら我々も心強く、そして広く共感が生まれると思います。

寺側 学校公開では子供と一緒に考えようという場面があるので、親も一緒に考えていませんか？と問いかけることができます。普段からエスカレーターを使ってるのは子どもより大人の方が多いので、保護者が危険だと思ったことを子どもと一緒に考えることにより見解が広がります。そして指導する側から実情を伝えるだけで変わると思います。

継続的な活動の意義

水瀬 これからの私たち理学療法士の活動に一言いただけますか？

石坂 メンバーに実際に困っている当事者もいることがとても良いです。先生方がこの活動を色々な立場の人に知ってもらいたいと思っていることがすごく大切だと思います。これからも沢山の方々に伝えることを継続してください。

寺側 私自身が参加したことで、協会の方々が不自由な方に対して接している姿を見て、以前と比べて車いすの方や身体が不自由な方々に注目するようになりました。現在の教育のテーマの一つに「共生」（誰もが幸せで不自由なく暮らせる社会）を作ることがあるので、私も子ども達と話を指導してあげたいと思います。

水瀬 お二人からの言葉とても心強いです。ありがとうございます。私たちも本当小さいことからこの活動を始めてきましたが、今回のように社会に対して発信をしていく中で、先生もおっしゃっていたように誰もが暮らしやすい幸せな社会を作っていきたいなと思います。今回はインタビューを受けてありがとうございました。